

家族読書パンフレット

家族でいっしょに 本に親しもう！

—「家族読書」おススメ図書100選—



保育所・幼稚園・学校名

名前

--	--

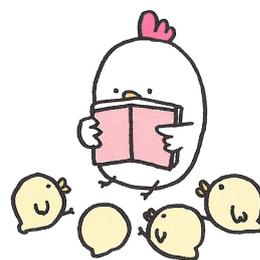
家庭から読書を始めよう「家族読書」

読書の習慣は、幼いときの絵本の読み聞かせから始まります。

ご家庭で、お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんが本に親しむ姿を見て、子どもたちは本への興味や関心を持つようになります。

質の良い読書は、これからの人生を生きる上での心の糧となります。また、創造力や思考力を養い、言語能力を身につけることにもつながります。お子さんが大切な成長期に本に親しむことは、家族からのお子さんへの何よりの贈りものになることでしょう。

ご家庭で、家族がいっしょに本に親しむことを私たちは「家族読書」と名付けて、その普及を図りたいと考えました。そのために、各家庭で本に親しむための「10の提案」とともに、ご家庭で親しんでいただきたい「おススメ図書100選」を提唱します。これらを参考に本を選んでいただき、ご家庭で「家族読書」として本に親しんでみてはいかがでしょうか。



「家族読書」に親しむ10の提案

- 1 大人が子どもに本を読んであげよう！
- 2 家族で同じ本を読んでみよう！
- 3 子どもが大人に本を読んであげよう！
- 4 大人と子どもが交替で一冊の本を読んでみよう！
- 5 読んだ本の感想を話し合ってみよう！
- 6 読んだ本の感想を書いてみよう！
- 7 読んだ本について、どんなところが心に残ったか話し合ってみよう！
- 8 読んだ本に書いてあった良いことを、やってみよう！
- 9 家族でいっしょに図書館に行って、本を選んでみよう！
- 10 ノーメディアデー（ウィーク）を決めて、家族で本を読む時間をつくろう！

この中のひとつでもこの機会にチャレンジしてみたいかがですか？





「家族読書」パンフレットの活用のしかた

幼児

家族でいっしょに図書館などに行って本を選び、子どもをひざにだっこしながら読み聞かせをしましょう。子どもが笑ったり、関心を示したりしたところを大切にしながら繰り返し読んであげましょう。また、本の中に出てきたことを日常生活の中でも体験させると、本の世界がより豊かになるでしょう。

小学校 低学年

読み聞かせをしたり、家族で同じ本を読んだり、交替で一冊の本を読んだりして家族で読書をしましょう。家族で読んだ感想も話し合ひましょう。読んだ本に書いてあったことをいっしょに試してみることも本への興味・関心を高めます。

小学校 中学年 高学年

家族で読書に親しむ時間を設定し、好きな本を読んでみましょう。読んだ本の内容について話し合ったり、お互いに紹介したりして好きな本の幅を広げていきましょう。

中学生

家庭でノーメディアデー（ウィーク）を決めて家族いっしょに読書に親しみ、読んだ本の感想を書いたり、話し合ったり、紹介し合ったりして読書の幅を広げましょう。また、本の中の主人公たちがどのような生き方をしているのかを知り、これからの進路の選択や人生プランを考える時に活かしていきましょう。

ノーメディアデー（ウィーク）のすすめ

メディアによる子どもの健全な育成への弊害が社会的にも問題となってきています。特に、乳幼児からのメディア漬けの影響で、子どもの睡眠不足、食欲や意欲の減退、集中力の欠如、脳や心の慢性疲労、不登校の問題が生じていることが臨床現場からも報告されています。



子どもたちをメディア漬けから救うためには、ノーメディアデー（ウィーク）を設定してメディアへの接触時間を制限することが必要です。さまざまなメディアのスイッチを消して、ご家庭で静かに読書をする時間を持つように心がけてみてはいかがでしょうか。そうすれば、子どもたちも本をじっくり読む時間ができ、本についての話をするこゝで、家族のコミュニケーションを図ることができます。

メディアとは

テレビ、パソコン、スマートフォン、携帯電話、ビデオ、DVD、ゲーム、インターネットなどのことをいいます。

幼児向け

親子で読んでみてのコメント
(子どもの様子など)

幼児向け



1 『ちいさなねこ』

石井桃子/作 横内 襄/絵 福音館書店

ちいさなねこは、おかあさんのもとからはなれて、そとにでかけていきました。ところが、そとはちいさなねこにとってあぶないことがたくさんあります。こどもにはねこがじぶんのようで、どきどきするえほんです。

《記入例》

車にひかれそうになった場面では、息をのんで聞いていました。

【幼児向け「親子で読んでみてのコメント」記入のポイント】

お子さんと一緒に読んでいると、笑ったり、真剣な顔をしたり、思わず声を上げたり、さまざまな反応を見せてくれます。そんな子どもの様子をコメント欄に記入してみましょう。



1 『ちいさなねこ』

石井桃子/作 横内 襄/絵 福音館書店

ちいさなねこは、おかあさんのもとからはなれて、そとにでかけていきました。ところが、そとはちいさなねこにとってあぶないことがたくさんあります。こどもにはねこがじぶんのようで、どきどきするえほんです。

かいじゅうたちのいるところ



2 『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック/作 じんぐうてるお/訳 富山房

しゅじんこうのマックスは、おかあさんのいうことをきかないので、とうとうゆうごはんぬきでしんしつにいれられてしまいます。ここからがマックスのぼうけんのはじまりです。みたこともないかいじゅうたちとであいます。



3 『スイミー』

レオ=レオニ/作 谷川俊太郎/訳 好学社

うみのどこかに、ちいさなさかなのきょうだいたちがすんでいました。そのなかでいっぴきだけまっくろのさかなをスイミーといいました。スイミーたちは、ちえとゆうきをふりしぼってこわいおおきなさかなをおいします。



4 『はじめてのおつかい』

筒井頼子/作 林明子/絵 福音館書店

おかあさんからおつかいをたのまれたみーちゃんは、おかねをしっかりにぎりしめてでかけます。いつもはおかあさんといっしょなのにきょうはひとりでおつかいです。みーちゃんのドキドキが伝わってくるえほんです。



5 『はらぺこあおむし』

エリック・カール/作 もりひさし/訳 偕成社

たまごからうまれたばかりのあおむしは、おなかをすかせて、りんごやなしやすももなどいっしゅうかんいろいろなものをたべておなかをこわしてしまいます。みどりのはっぱをたべて、やがてちょうになっていきます。

幼児向け

幼児向け

親子で読んでみてのコメント
(子どもの様子など)



6 『てぶくろ』

エウゲーニー・M・ラチヨフ/絵 内田莉沙子/訳 福音館書店

おじいさんのおとしたてぶくろに、つぎつぎともりのどうぶつたちがはいりこみます。てぶくろは、いまにもはちきれそうになってしまいます。さむいぼんにあったかいこたつのなかでよんでほしいほんです。



7 『だるまちゃんとてんぐちゃん』ほか7

加古里子/作・絵 福音館書店

だるまちゃんはなかよしのてんぐちゃんもっているものが、ほしくてたまりません。おとうさんのだるまどんにおねがいして、にているものをさがしてもらいます。なかよしだからこそ、おなじものがほしいのです。



8 『ぐるんぱのようちえん』

西内ミナミ/作 堀内誠一/絵 福音館書店

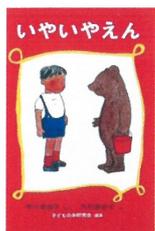
ひとりぼっちのぞう「ぐるんぱ」は、おおきくなったのにないてばかりいるので、まちはたらしにだされませんが、なかなかうまくいきません。でも、さいごにはじぶんにぴったりのしごとをみつけることができました。



9 『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット/作 渡辺茂男/訳 福音館書店

9さいのおとこのこエルマーが、とおくはなれた「どうぶつじま」へつかまっているこどものりゅうをたすけにいくぼうけんのおはなしです。エルマーがじぶんのちえとゆうきをつかって、きけんをのりこえていきます。



10 『いやいやえん』

中川李枝子/作 大村百合子/絵 福音館書店

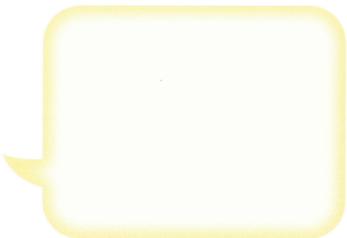
ちゅーりっぷほいくえんにかようしげるちゃんは、いちにちになんかいも「しげるちゃん！」とせんせいにしかられてしまいます。ほいくえんのこどもたちのたのしいエピソードがたくさんついています。



11 『おいしいのぼうけん』

ふるたたるひ・たばたせいいち/作 童心社

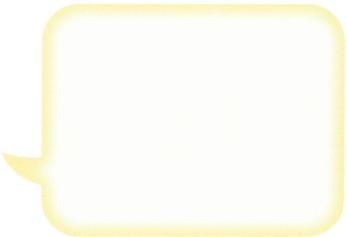
さくらほいくえんで、せんせいにしかられたさととあきは、こわいおいしいにいれられてしまいます。そこでふたりはこわいねずみばあさんにであいます。ねずみばあさんとふたりとのたいけつがどきどきします。



12 『ぐりとぐら』

中川李枝子/作 大村百合子/絵 福音館書店

のねずみのぐりとぐらは、おおきなたまごをみつけました。ふたりはさっそくそのたまごで、おおきいかすてらをやくことにしました。かすてらがやけて、おなべのふたをとるしゅんかんがとてもわくわくします。



幼児向け

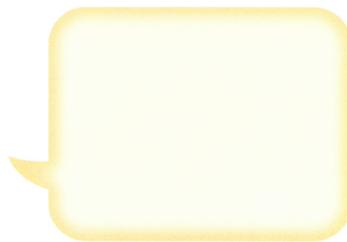
親子で読んでみてのコメント
(子どもの様子など)



13 『せんとくかあちゃん』

さとうわきこ/作・絵 福音館書店

せんとくのだいすきなかあちゃんは、あらうものがなくなると、いぬでもねこでもなんでもあらってしまいます。そらからおちてきたかみなりにおどろくこともなく、あっというまにごしごしとあらってしまいました。



14 『わたしのワンピース』

にしまきかやこ/作 こぐま社

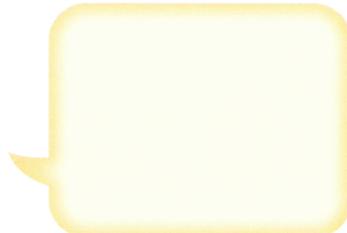
いちまいのまっしろなぬのでうさぎがワンピースをつくりました。うさぎがでかけるところによってワンピースのようがさまざまにかかります。つぎはどんなもようにかわるのか、ページをめくるとのがたのしくなります。



15 『しょうぼうじどうしゃじぶた』

渡辺茂男/作 山本忠敬/絵 福音館書店

ふるいジープをかいぞうしたちいさなしょうぼうしゃ「じぶた」は、はしごしゃやきゆうきゆうしゃのかつやくにいつもあこがれていました。やまかじがおこり、ちいさなじぶたにかつやくのばんがまわってきます。



16 『まっくろネリノ』

ヘルガ=ガルラー/作 矢川澄子/訳 偕成社

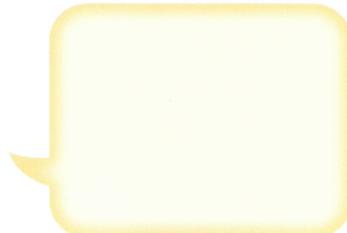
まっくろなネリノは、きれいないろのほかのきょうだいたちとあそんでもらえませんが、ところがあるとき、きょうだいたちがつかまってしまいます。くらやみのなか、ネリノはきょうだいたちをたすけにでかけます。



17 『どろんこハリー』

ジン・ジョン/文 マーガレット・プロイ・グラム/絵 わたなべしげお/訳 福音館書店

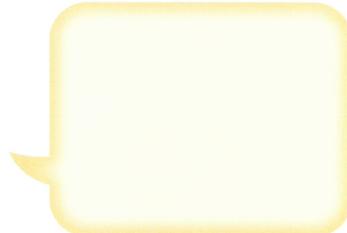
くろいぶちのあるしろいいぬのハリーはおふろがだいきらいです。おふろにおゆがはいるおとをきくとにげだして、どろんこになってあそびました。いえにかえってきたハリーをみても、かぞくはハリーときがつかみません。



18 『めっきらもっきら どおんどん』

長谷川摂子/作 ふりやなな/画 福音館書店

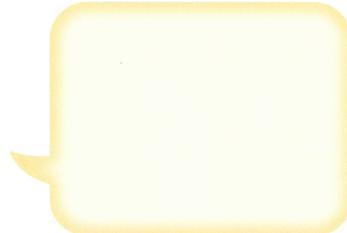
かんたはじんじゃのまえでじぶんでつくったうたを「めっきらもっきらどおんどん」とうたいました。そのとたん、ふしぎなせかいにすいこまれ、3にんのふしぎなおばけたちとであって、おもいっきりあそびます。



19 『こすずめのぼうけん』

ルース・エイズワース/作 石井桃子/訳 福内誠一/画 福音館書店

こすずめは、やわらかいちやいろいはねがはえて、とぶれんしゅうをしていました。あるとき、こすずめはとおくへとんでいき、つかれてはねをやすませるところをさがすのですが、ことわられてしまいます。



幼児向け

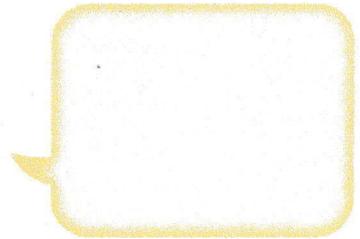
親子で読んでみてのコメント
(子どもの様子など)



20 『番ねずみのヤカちゃん』

リチャード・ウィルバー/作 松岡享子/訳 大社礼子/絵 福音館書店

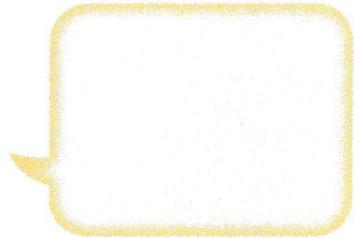
あるいえに、おかあさんねずみと4ひきのこねずみが、こっそりとすんでいました。4ひきめのこねずみは「やかましやのヤカちゃん」とよばれています。「ばんねずみ」と「やかましや」のいみはよんでいくとわかりますよ。



21 『ちいさいおうち』

バージニア・リー・バートン/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店

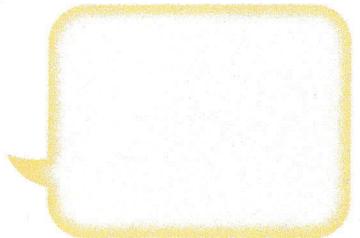
ちいさいおうちは、いなかのこだかいおかのうえにたっています。おかからみえるとおくのおおきなたてもものにあこがれていました。だんだんとおうちのまわりにはどうろやビルがたって、ようすがすっかりかわってしまいます。



22 『もこ もこもこ』

谷川俊太郎/作 元永定正/絵 文研出版

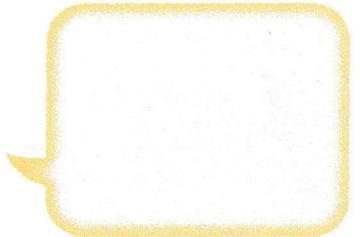
「もこ」ということばがたくさんできます。カラフルなえとみじかいぶんでひょうげんされたイメージのせかいです。はじめてのよみきかせにはオススメのえほんです。ゆっくりページをめくり、たのしんでください。



23 『もりのへなそうる』

渡辺茂男/作 山脇百合子/絵 福音館書店

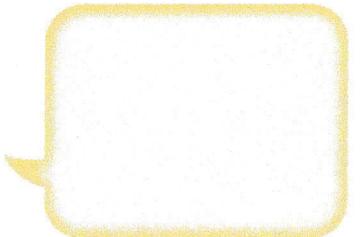
あるひ、おにいちゃんのでつたくんと、おとうとのみつやくんが、ふたりでもりへたんけんにてかけました。そこでは「へなそうる」というふしぎなものにてあいます。「へなそうる」がなにかは、よむとわかりますよ。



24 『たんたのたんけん』

中川李枝子/作 山脇百合子/絵 Gakken

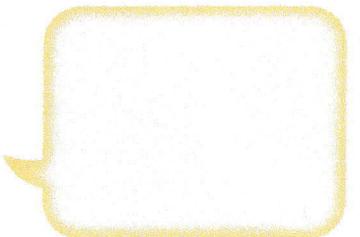
たんたのたんじょうびのひに、どこからか、いちまいのちずが・・・そのちずをもってたんけんにてかけます。たんけんのとちゅうで、ひょうのこにてあいます。ふたりはちずをみながら、さいごはなにをみつけることでしょう。



25 『ねずみくんのチョコッキ』

なかえよしを/作 上野紀子/絵 ポプラ社

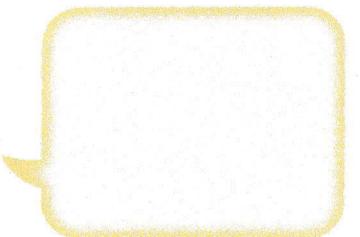
おかあさんにあんでもらったあかいチョコッキは、ねずみくんにぴったりです。そこへ「ちょっとかして」といろいろなどうぶつがつぎつぎにチョコッキをかりにきます。ねずみくんにぴったりのチョコッキはべつものにかわります。



26 『どうぞのいす』

香山美子/作 柿本幸造/絵 ひさかたチャイルド

うさぎさんがちいさいいすをつくり「どうぞのいす」というたてふだをたててのはらにおきました。そのいすをみたどうぶつたちがつぎつぎと「どうぞ」のリレーをはじめます。おもいやりをかんじるおはなしです。



幼児向け／小学生（低学年）向け

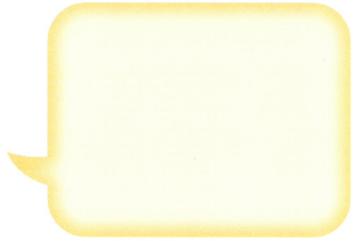
親子で読んでみてのコメント
(子どもの様子など)



27『そらまめくんのベッド』

なかやみわ/作・絵 福音館書店

そらまめくんのたからものはふかふかのベッド。ともだちが「かして」といってもそらまめくんはかしてくれません。あるひ、そのベッドがなくなり、いがいなところでみつかります。そらまめくんのこころのせいちょうがかんじられます。



28『からすのパンやさん』

かこさとし/文・絵 偕成社

からすのパンやさんに4わのあかちゃんがうまれました。そのこどもたちとアイデアをだしてあたらしいパンをつくりました。そのパンをかうためにたくさんのからすたちがあつまって、おおさわぎになってしまいます。



29『サリーのこけももつみ』

ロバート・マックロスキー/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店

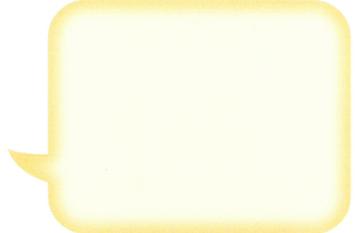
やまにこけももをつみにきたサリーとおかあさんは、くまのおやこにであいました。ひよんなことから、おたがいのおかあさんをとりちがえてしまいます。だんだんにんげんとくまのおやこがおなじようにみえてきます。



30『三びきのこぶた』

瀬田貞二/訳 山田三郎/画 福音館書店

さんびきのこぶたたちはじぶんのいえをつくりますが、いちばんめとにばんめのこぶたは、おなかをすかせたおおかみにたべられてしまいます。さんばんめのこぶたはちえをだしておおかみにたちむかっています。



小学生（低学年）向け



31『かもさんおとおり』

ロバート・マックロスキー/文・絵 わたなべしげお/訳 福音館書店

かもの家族は川から公園へ引っ越すことになりました。一列になってさあ出発！かもさんたちが町の中を歩き出すとおまわりさんが交通整理をしてくれました。温かく町の人たちに見守られながらかもさんたちは公園へ向かいます。

《記入例》

かもにちがおまわりさんの誘導で道路をよこぎるシーンを何度も読んでほしがります。

【小学生（低学年）向け「親子で読んでみてのコメント」記入のポイント】

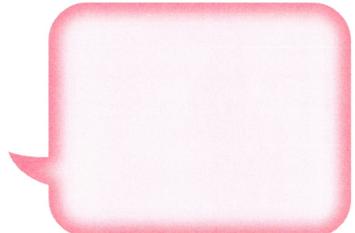
お子さんといっしょに読んでいると、気になる場面で自然に言葉を出したり、くりかえし読んでほしいとせがんだりします。また、いっしょに自分で読もうとします。そんな子どもの様子をコメント欄に記入してみましょう。



31『かもさんおとおり』

ロバート・マックロスキー/文・絵 わたなべしげお/訳 福音館書店

かもの家族は川から公園へ引っ越すことになりました。一列になってさあ出発！かもさんたちが町の中を歩き出すとおまわりさんが交通整理をしてくれました。温かく町の人たちに見守られながらかもさんたちは公園へ向かいます。



小学生（低学年）向け

親子で読んでみてのコメント
(子どもの様子など)



32 『はなのすきなうし』

マンロー・リーフ/文 ロバート・ローソン/絵 光吉夏弥/訳 岩波書店

「ふえるじなんど」は、大きく強そうな牛。でも闘牛場につれて行ってもたたかおうとはしません。「ふえるじなんど」の幸せは、強い闘牛になるのではなく静かに花のにおいをかぐことなのです。



33 『火のくつと風のサンダル』

ウルズラ=ウェルフエル/作 関楠生/訳 童話館出版

デブでチビで貧乏なくつやのチムは、他の男の子になりたいと思っていました。誕生日にお父さんから「火のくつ」という名前とすてきな冒険旅行をプレゼントされ、2人で旅に出ることになりました。



34 『わたしのおかあさんは世界一びじん』

ベッキー・ライアー/文 光吉郁子/訳 ルース・ガネット/絵 大日本図書

いつの間にか麦畑で眠ってしまい迷子になったワーリャ。「わたしのおかあさんは世界一びじん」を手がかりに村中から美人のお母さんが呼び集められ、ワーリャの大好きなお母さん探しが始まりました。



35 『車のいろは空のいろ 白いぼうし』ほか2

あまんきみこ/作 北田卓史/絵 ポプラ社

空いろのタクシーに乗るのは、運転手の松井さんです。松井さんのもとにはとても不思議な乗客とともに、不思議な出来事が次々と起こります。目的地に着いたころ、みんなの心がほんわかと温かくなるお話です。



36 『としょかんライオン』

ミシェル・ヌードセン/作 ケビン・ホクス/絵 福本友美子/訳 岩崎書店

図書館は、きまりを守ることでみんなが楽しくすごせる場所。そこに大きなライオンがやってきてみんなは大あわて。きまりを守ればライオンでだって同じです。きまりについて考えさせられるお話です。



37 『100まんびきのねこ』

ワнда・ガアグ/文・絵 石井桃子/訳 福音館書店

年を取ったおじいさんとおばあさんは、さびしくてねこをかうことになりねこを探しにでかけます。丘を越えるとそこにはかわいいねこがいっぱい。さて、おじいさんとおばあさんはどんなねこを選ぶのでしょうか。



38 『くんちゃんのはじめてのがっこう』ほか6

ドロシー・マリノ/作 間崎ルリ子/訳 ペンギン社

1年生になって学校へ行く日を楽しみにしていたくんちゃん。ところが、授業中に教室から逃げ出してしまいます。でも外から授業を見ているうちに自分もできることに自信をもちます。不安な時期の子どもに寄りそう絵本です。

小学生（低学年）向け

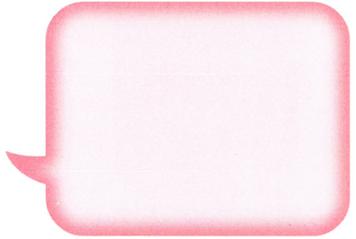
親子で読んでみてのコメント
(子どもの様子など)



39 『かにむかし』

木下順二/文 清水 崑/絵 岩波書店

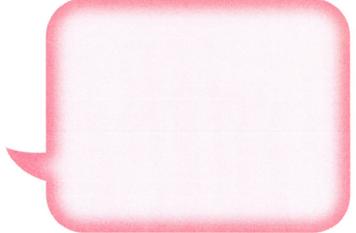
かにかが拾った柿の種を庭にまくと、木になり、たくさんの実をつけました。そこにやってきたさるがうれた柿を食べ、まだ青い柿をかにかに投げつけました。そこからかにかの反撃が始まります。



40 『チムとゆうかななせんちょうさん』

エドワード・アーディゾーニ/作 せたていじ/訳 福音館書店

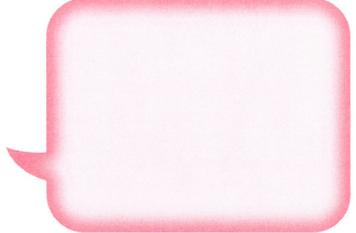
船乗りになりたくてたまらないチムは、親にないしょで船に乗りこみ船員として働き始めます。ある嵐の夜、船は岩にぶつかって沈んでしまいます。取り残されたチムは船長とともに勇敢に行動し成長していきます。



41 『こねこのびっち』

ハンス・フィッシャー/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店

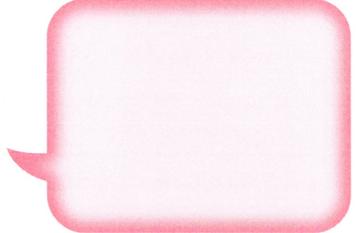
一番小さいこねこのびっちは、兄弟たちとは違うことがしたくて家の外に出ていってしまいます。ところがこわい思いをして病気になってしまいました。心配した仲間たちのやさしい気持ちがびっちにつたわります。



42 『くまの子ウーフ』ほか2

神沢利子/作 井上洋介/絵 ポプラ社

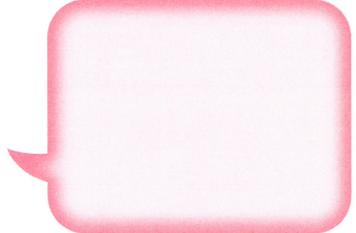
「どうして？」ウーフは考えることが大好き。友だちのツネタに「にわとりは卵でできている」と話すと「ウーフはおしっこでできている」と言われ考え込んでしまいます。ウーフの「どうして？」がいっぱいまった本です。



43 『ふたりはともだち』ほか3

アーノルド・ローベル/作 三木卓/訳 文化出版局

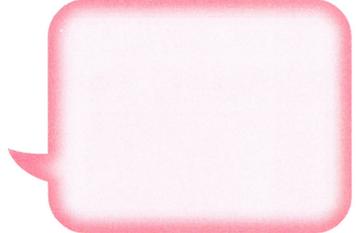
かえるくんとがまくんはとても仲良しです。いっしょにいないときみしくて、困ったことがあればなんとかしようと考えます。いつでも友だちのことを思い、自分にできることを探しているすてきなお話です。



44 『ひとまねこざるとさいりいぼうし』ほか5

H.A.レイ/文・絵 光吉夏弥/訳 岩波書店

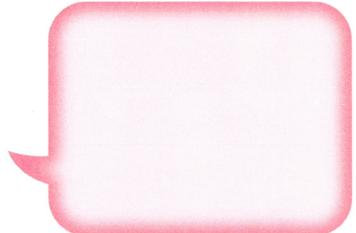
知りたがりでいたずらっ子のこざるのジョージは、黄色い帽子のおじさんに連れられてジャングルから町へやってきました。何にでも興味があって元気なジョージが黄色い帽子のおじさんと町での楽しい生活を始めます。



45 『愛蔵版おはなしのろうそく』1～10

東京子ども図書館/編 大社玲子/絵 東京子ども図書館

東京子ども図書館の「おはなしの時間」に繰り返し語られてきた、子どもたちに人気の物語を集めたシリーズです。日本や世界各地の昔話、わらべ歌、手遊びなどが収められています。



小学生(中学年)向け

読んでみてのコメント

小学生(中・高学年)・中学生向け

《記入例》



46『ロバのシルベスターとまほうの小石』

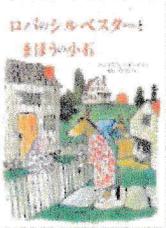
ウィリアム・スタイグ/作 せたていじ/訳 評論社

ロバのシルベスターは、願いが叶う魔法の赤い小石を拾います。ところがライオンに驚き、「岩になりたい」と願ってしまいます。お父さんとお母さんは深い悲しみに包まれますが、春の訪れとともに喜びがやってきます。

岩になってしまったロバが、最後に元に戻れて安心した。家族って大切でよいものだと思った。

【小学生(中・高学年)・中学生向け「読んでみてのコメント」記入のポイント】

自分で読んでみて、または家族といっしょに同じ本を読んでみて、気がついたこと、印象にのこったこと(場面など)を思い出して、どうして気になったのか自分なりに考えて書いてみましょう。



46『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ウィリアム・スタイグ/作 せたていじ/訳 評論社

ロバのシルベスターは、願いが叶う魔法の赤い小石を拾います。ところがライオンに驚き、「岩になりたい」と願ってしまいます。お父さんとお母さんは深い悲しみに包まれますが、春の訪れとともに喜びがやってきます。



47『ラモーナとおとうさん』・『ラモーナとおかあさん』

ベバリー・クリアー/作 松岡享子/訳 アラン・ティエグリーン/絵 Gakken

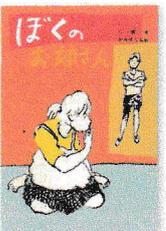
元気いっぱいラモーナは4人家族。ところがお父さんが会社をやめることになってしまいます。クインビー家ではいろいろな変化がおきますが、いつも想像力豊かで行動力のあるラモーナが家族を明るくしてくれます。



48『みしのたくかにと』

松岡享子/作 大社玲子/絵 こぐま社

毎日の勉強で青白い顔をした王子様が、ある日、おばさんの庭で「みしのたくかにと」という立て札を目にします。これが王子様にばら色のほっぺを取り戻すことに。さあ「みしのたくかにと」って何だろう？



49『ぼくのお姉さん』

丘 修三/作 かみやしん/絵 偕成社

ぼくのお姉さんにはダウン症という障がいがあり、福祉作業所で働いています。ぼくは宿題でお姉さんについて作文を書かなくてはならず悩んでいます。そんなとき突然お姉さんがレストランに行こうと言い出しました。



50『ルドルフとイッパイアッテナ』ほか3

齊藤洋/作 杉浦範茂/絵 講談社

ひよんなことから知らない街へとやって来た黒猫ルドルフ。のらネコのイッパイアッテナと出会い、いろいろな出来事が起こります。一つ一つを乗り越えながら成長していくルドルフの姿をお楽しみください。

小学生（中学年）向け

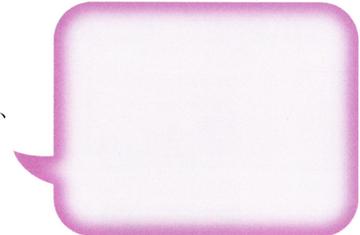
読んでみてのコメント



51 『おじいさんのランプ』

新美南吉/作 篠崎三朗/絵 新美南吉の会/編 小峰書店

今はもう使われていないランプを発見した東一は、おじいさんからランプにまつわる話を聞きます。ランプとの出会いは、おじいさんの生き方をどう変えたのでしょうか。生きる上で大切なことは何なのか考えさせられます。



52 『ごんぎつね』（岩波少年文庫）

新美南吉/作 岩波書店

一人ぼっちの小ぎつねごんは、村へ出てはいたずらをくり返します。兵十へのいたずらを通して、ごんの気持ちは少しずつ兵十へと近づいていきます。最後にごんと兵十の関係はどうなるのでしょうか。ほか11話。



53 『チョコレート戦争』

大石真/作 北田卓史/絵 理論社

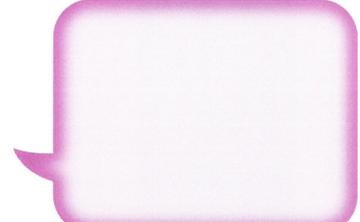
学校の帰り道、2人が洋菓子屋のショーウィンドーをのぞいていると、いきなり目の前のガラスが割れて、お店の人に犯人扱いされてしまいます。子どもたちは町一番の洋菓子屋さんに戦いを挑みます。



54 『せかいいち うつくしい ぼくの村』 ほか2

小林豊/作・絵 ポプラ社

自然と果物がいっぱいやさしさあふれるパグマンの村。ヤモは戦争に行った兄を心配しながらも、今の暮らしを幸せに感じています。戦争でどんなことがあっても変わることのない大切なことを教えてくれる物語です。



55 『放課後の時間割』

岡田淳/作・絵 偕成社

「野に住むのがノネズミでドブに住むのがドブネズミとすれば学校に住むのは学校ネズミじゃないかね。」学校の屋根裏に住む話好きの学校ネズミから月曜日の放課後に話を聞くことに。さてどんなお話が聞けるのでしょうか。



56 『ペニーさん』 ほか2

マリー・ホール・エッツ/作・絵 松岡享子/訳 徳間書店

貧乏でも動物たちと幸せに暮らしていたペニーさんですが、ある日、動物たちがお隣の畑を荒らしてしまいます。困り果てるペニーさんを救おうと動物たちが、懸命に働いて弁償するお話です。



57 『イギリスとアイルランドの昔話』

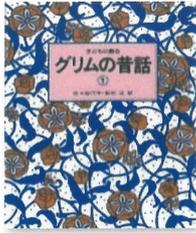
J・D・バトン/画 石井桃子/編・訳 福音館書店

イギリスやアイルランドには妖精が住むといわれ、昔から妖精の話が語り継がれています。皆さんがイメージする妖精とは違い不気味で怖いお話が多くあります。きっとお気に入りのお話が見つかりますよ。



小学生（中学年）向け／小学生（高学年）向け

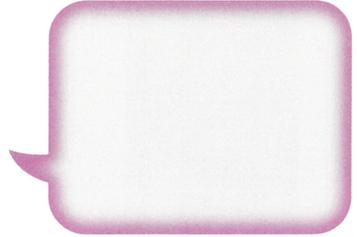
読んでみてのコメント



58 『子どもに語るグリムの昔話1』ほか5

佐々梨代子・野村滋/訳 こぐま社

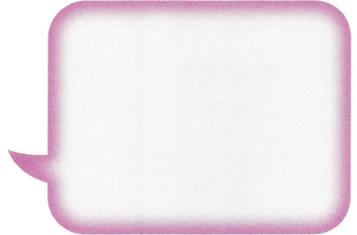
「おおかみと七ひきの子やぎ」など64のグリムの楽しいお話が、原話のまま分かりやすい日本語で書かれています。大人が子どもたちに読んでも良いし、自分で手にとって読めるようにも作られています。



59 『日本の昔話①はなさかじい』ほか4

おざわとしお/再話 赤羽末吉/画 福音館書店

「はなさかじい」をはじめたくさんの日本の昔話ののっています。すべて共通語で書かれていて、分かりやすく読むことができます。お話の魅力をより伝えるさし絵や道具の絵なども豊富です。



60 『ムーミン童話全集①ムーミン谷の彗星』ほか8

トーベ・ヤンソン/作・絵 下村隆一/訳 講談社

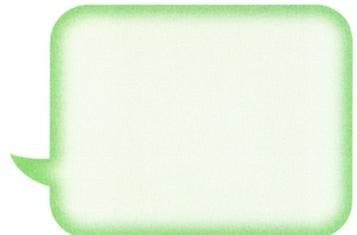
平和なムーミン谷に住むムーミントロールは、ジャコウネズミから彗星が地球に衝突して滅びてしまうことを聞き、遠い天文台まで旅します。彗星がムーミン谷に近づくにつれムーミンたちにも危機が迫ってきます。



61 『新版ガラスのうさぎ』

高木敏子/作 式部本一郎/画 金の星社

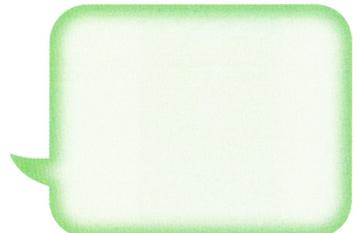
大きなガラスのうさぎの置物が半分以上とけてぐにやぐにやになってころがっています。わずか12歳の少女が戦争の中を生きぬいた実話で、作者が後世へ伝えたいと平和への祈りを込めてつづった作品です。



62 『せいめいのれきし (改訂版)』

バージニア・リー・パートン/文・絵 いいももこ/訳 まなべまこと/監修 岩波書店

地球に生命が誕生してから、今この瞬間までの長い命のリレーを劇場仕立てで壮大に物語ります。生きる喜びに満ちあふれたユニークで美しい仕掛けのある絵本です。きっと新しい発見があり大いに楽しめます。



63 『小さい牛追い』・『牛追いの冬』(岩波少年文庫)

マリー・ハムズン/作 石井桃子/訳 岩波書店

小さな農場に住む4人の子どもたちは、そこで4頭の牝牛を飼い、春からは2人の兄たちが山の上の牧場で初めて牛追いをすることになりました。豊かな自然の中で暮らす家族の様子が生き生きと描かれています。



64 『チョコレート工場の秘密』

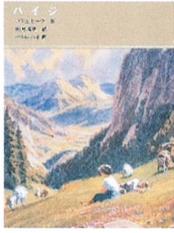
ロアルド・ダール/作 ケンティン・ブレイク/絵 柳瀬尚紀/訳 評論社

貧しい男の子のチャーリーは、あるとき、町にある世界一大きなチョコレート工場の見学に招待されることになりました。誰も中をみたことのないナゾの工場の現場は、想像以上に夢のような世界でした。



小学生（高学年）向け

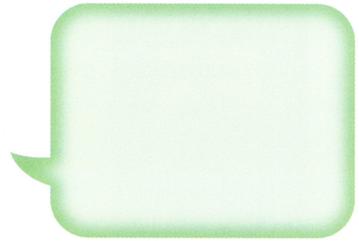
読んでみてのコメント



65 『ハイジ』

J・シュペーリ/作 矢川澄子/訳 パウル・ハイ/画 福音館書店

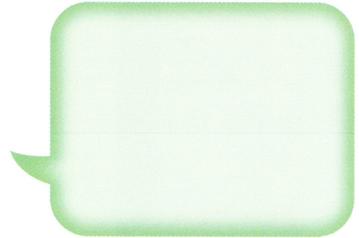
両親をなくしたハイジは、自然豊かなアルプスの山に住むおじさんと暮らしていましたが、お婆さんのはからいで都会の大きな屋敷で病弱な女の子の相手をするに。アルプスの大自然のすばらしさを感じられます。



66 『あらしの前』 『あらしのあと』 (岩波少年文庫)

ドラ・ド・ヨング/作 吉野源三郎/訳 岩波書店

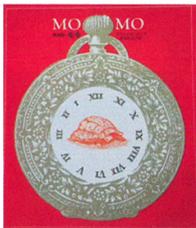
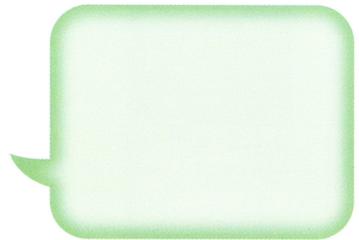
愛と信頼に満ちた日々を過ごしていたオールト家の人々。しかし戦争の影がオランダに忍び寄り、一家の暮らしは変わっていきます。やがて、つらい戦争を乗り越えた彼らに、少しずつ希望の光が灯り始めます。



67 『太陽の戦士』 (岩波少年文庫)

ローズマリ・サトクリフ/作 猪熊葉子/訳 岩波書店

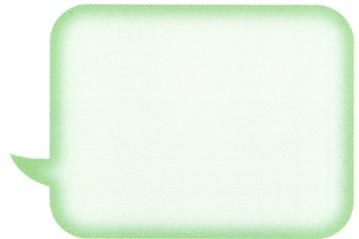
ドレム少年は、一人前の戦士になるためのきびしい試練に立ち向かいます。そこに待ち受けているのは、数々の障害と挫折です。彼を取り巻く人々の愛と友情が、困難を乗り越える力となっていきます。



68 『愛蔵版 モモ』

ミヒヤエル・エンデ/作・絵 大島かおり/訳 岩波書店

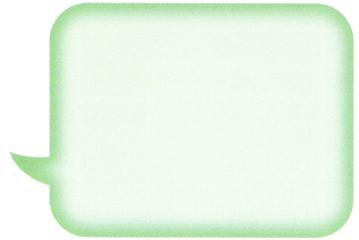
町外れの小さな円形劇場の廃墟にモモという女の子が住みつき、町の人たちと仲良く暮らしていました。ところがこの町にあやしげな男たちがやってきて人々に時間の節約を強制すると、町の様子は変わっていきます。



69 『夏の庭-The Friends-』

湯本香樹実/作 徳間書店

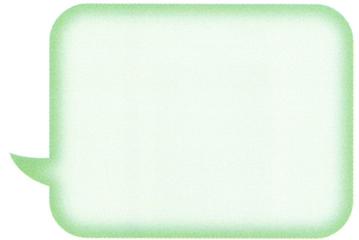
「人が死ぬところを見てみたい」そこである老人を見張ることに。小6の夏休み、ふとした好奇心から出会った老人と3人の少年たちの交流で生まれたひと夏の友情を描いた心温まるストーリーです。



70 『あしながおじさん』 (岩波少年文庫)

ジーン・ウェブスター/作 谷口由美子/訳 岩波書店

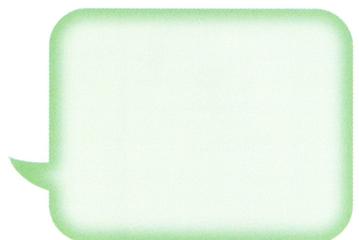
みなしごジュディは、孤児院の評議員に文才を認められて大学へ行きます。ジュディは、月に一度その紳士に近況を伝える手紙を書きますが、その才能を生かして、おもしろおかしい手紙を送ることになります。



71 『星の王子さま』 (岩波少年文庫)

サン=テグジュペリ/作 内藤 濯/訳 岩波書店

サハラ砂漠の真ん中で飛行機がパンクして修理をしていたぼくの前に突然現れた不思議な男の子は、遠い小さな星からやってきた王子さまでした。やさしい言葉に人生の深い真実が隠されています。



小学生（高学年）向け

読んでみてのコメント



72『銀河鉄道之夜』（岩波少年文庫）

宮沢賢治/作 岩波書店

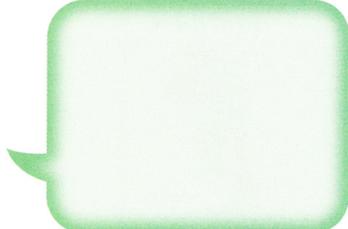
孤独な少年ジョバンニが、友人カムパネルラと銀河鉄道に乗って旅をする物語。宮沢賢治童話の代表作の一つとされています。未完成のまま世に出されたこの童話は、賢治の想いの詰まった作品です。



73『精霊の守り人』ほか11

上橋菜穂子/作 二木真希子/絵 偕成社

精霊の卵を宿したために命をねらわれる皇太子チャグム。彼を命がけで守ることになったバルサは女用心棒。逃亡の旅で2人は強い絆で結ばれます。シリーズ1作目となるこの本は、ファンタジーの世界へと導きます。



74『床下の小人たち』（岩波少年文庫）ほか4

メアリー・ノートン/作 林 容吉/訳 岩波書店

古い屋敷の床下にすんでいる小人のアリエッティの一家は、床上の人間から物を借りて暮らしています。あるときアリエッティは男の子に姿を見られたことで一家の生活が一変。こんな小人がいたらいいなと思えます。



75『だれも知らない小さな国』ほか2

佐藤さとる/作 村上勉/絵 講談社

「矢印の先っぽのコロボックル小国」日本にもこんなに不思議で素敵な小人のお話がありました。私たちのすぐそこにいるような、なつかしいふるさとのような小人たちの世界に引き込まれます。



76『日本の神話 第1巻 くにはじまり』ほか5

赤羽末吉/絵 舟崎克彦/文 あかね書房

日本を誕生させた神々の物語です。古くは奈良時代に作られた「日本書紀」「古事記」に書かれました。日本の神話として分かりやすい絵本にしてあります。「いなばのしろうさぎ」「あまのいわと」などの作品がおなじみです。



77『三国志絵本 十万本の矢』ほか2

唐垂明/文 于大武/絵 岩波書店

中国の三国時代のお話です。魏、呉、蜀という3つの国が天下を争っていました。蜀の軍師孔明は、呉の軍師周瑜から短期間で十万本の矢を用意することを依頼されます。知恵者の孔明がなんなく解決するのが見事です。



78『西遊記 1 石から生まれた孫悟空』ほか2

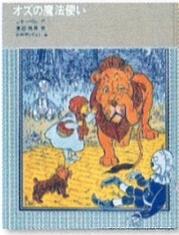
唐垂明/文 于大武/絵 偕成社

石から生まれた猿の孫悟空は、地上では無敵です。ある日天界から呼ばれた孫悟空は、散々な悪さをして神々に追いかられ、五行山の下に閉じ込められてしまいます。中国の古典に親しめる絵本のシリーズです。



小学生（高学年）向け／中学生向け

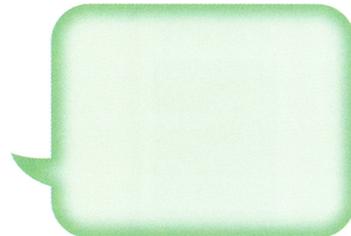
読んでみてのコメント



79 『オズの魔法使い』

L・F・バウム/作 渡辺茂男/訳 W・W・デンスロウ/画 福音館書店

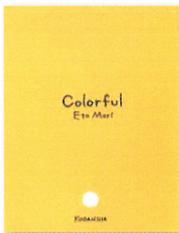
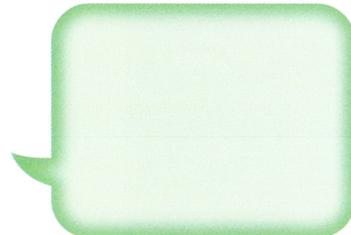
竜巻でオズの国に運ばれたドロシーは、願いをかなえてくれるオズ大王を探す旅に出かけます。ドロシーは、旅の途中で出会ったかかしと木こりとライオンの3人の仲間とともに、数々の冒険を切り抜けていきます。



80 『長くつ下のピッピ』

アストリッド・リンドグレーン/作 大塚勇三/訳 岩波書店

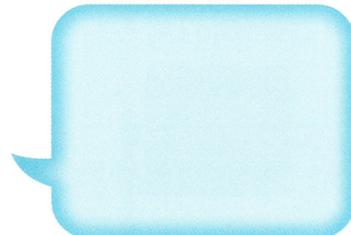
ピッピは世界一強い女の子。まだ9歳ですが、スウェーデンの小さな町のごたごた荘にサルと馬と一緒に住んでいます。一人ぼっちのピッピですが、周りはいつものにぎやか。もちまへの明るさで乗り切っています。



81 『カラフル』

森絵都/著 講談社

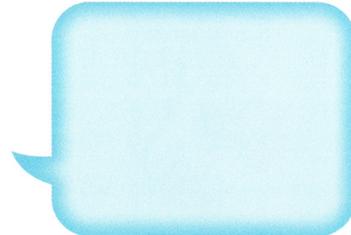
死んだはずの僕は天使から3日前に死んだ別人の体に戻り、人生を再挑戦できるチャンスが与えられたと告げられます。別人として生きる中で、一色だった世界が見る角度でさまざまな色を秘めていたことに気づきます。



82 『秘密の花園』（福音館文庫）

F・H・バーネット/作 猪熊葉子/訳 堀内誠一/画 福音館書店

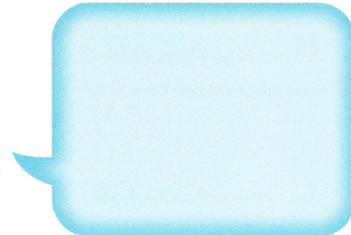
裕福な家庭で育った女の子メリーは、突然両親を亡くし、叔父の屋敷に引き取られます。その屋敷では、夜中にすすり泣きが聞こえ、その謎をつきとめます。そして、長年閉じていた「秘密の花園」の鍵を見つけ、花園の再生を目指します。



83 『西の魔女が死んだ』（新潮文庫）

梨木香歩/著 新潮社

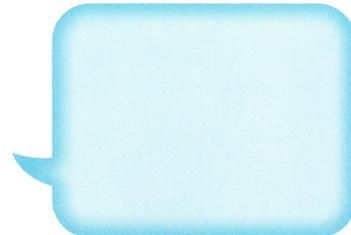
中学校生活がうまくいかず、学校へ通えなくなってしまったまいは、西の魔女と呼ばれる祖母の下で過ごします。祖母と一緒に自然の中で規則正しい生活をし、自分で何でも決めることで、次第にまいは自分を取り戻していきます。



84 『飛ぶ教室』（岩波少年文庫）

エーリヒ・ケストナー/作 池田香代子/訳 岩波書店

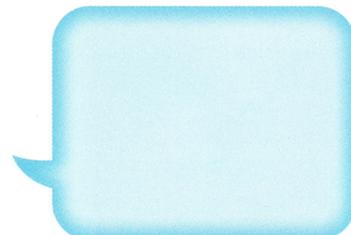
寄宿学校のマルティンたちは、クリスマス集会で上演する劇「飛ぶ教室」の練習に励みます。実業学校生たちとのけんか、尊敬する正義さんと禁煙さんの再会など、個性豊かな生徒たちが悩みながらも経験を通じて乗り越えていきます。



85 『レ・ミゼラブル』上・下（岩波少年文庫）

ヴィクトル・ユーゴー/作 豊島与志雄/編訳 岩波書店

19世紀のフランス。貧しさのためにパンを盗み投獄された主人公が司教との出会いによって改心し、後に市長になります。しかし、人を助けるためその名誉を捨てて孤児の少女とともに逃亡生活を送ることになります。



中学生向け

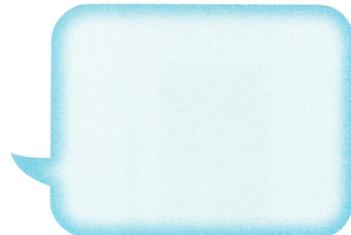
読んでみてのコメント



86『アンネの日記 増補新訂版』（文春文庫）

アンネ・フランク/著 深町眞理子/訳 文藝春秋

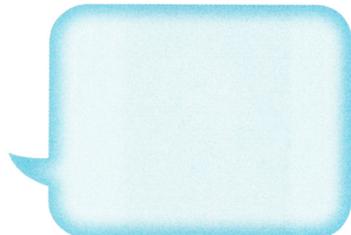
第二次世界大戦中のオランダでは、ドイツ軍によるユダヤ人狩りが続く中、アンネ一家を含む8人のユダヤ人は、「隠れ家」で悲劇が過ぎ去ることを望んで暮らしています。2年余りに渡る潜行生活や心の葛藤を日記で綴る実話です。



87『坊っちゃん』（フォア文庫）

夏目漱石/作 北島新平/画 金の星社

東京で生まれ育った江戸っ子の「坊っちゃん」は四国の中学の教師になります。そこで待ち受けていたのは、執拗な生徒のいたずらと、くせのある教師たちでした。正直にまっすぐに生きる坊っちゃんの姿が描かれています。



88『走れメロス』（偕成社文庫）

太宰治/作 偕成社

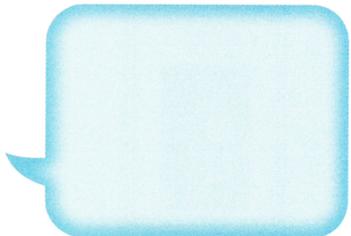
妹の結婚準備でシラクスの町にきたメロスは、残虐な王につかまります。妹の結婚式のためメロスは親友を人質にして町を離れます。3日目の日没までに帰らなければ、親友の命はありません。メロスはひたすら走ります。



89『蜘蛛の糸・杜子春・トロッコ』（ワイド版岩波文庫）

芥川竜之介/作 岩波書店

地獄で苦しむ罪人のカンダタが御釈迦様が下ろした蜘蛛の糸を上る「蜘蛛の糸」。人に愛想が付き仙人になろうとする若者「杜子春」。行ったことのない遠くまでトロッコを押していく「トロッコ」。ほか17編の短編集です。



90『塩狩峠』（新潮文庫）

三浦綾子/著 新潮社

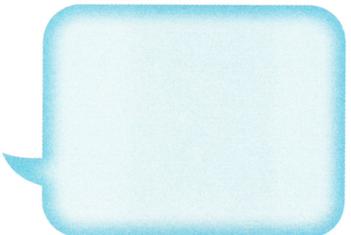
東京で育った信夫は、大人になると友人のすすめで北海道で暮らし始めます。あるとき鉄道会社で働く信夫の乗る汽車が脱線してしまいます。大勢の乗客の命を守ろうとした人物の、実話に基づく作品です。



91『影との戦い ゲド戦記1』（岩波少年文庫）

アーシュラ・K. ルーグウィン/作 清水真砂子/訳 岩波書店

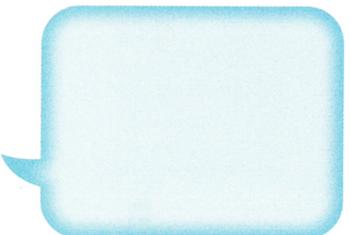
アースシーの Gond 島で生まれたハイタカは大魔法使いの弟子となり「ゲド」という名前を与えられます。その後、学院で魔法を学ぶゲドは力を過信し禁じた自らの影を呼び出します。それ以来ゲドは影に追われていきます。



92『赤毛のアン』（新潮文庫）

ルーシー・モード・モンゴメリ/著 村岡花子/訳 新潮社

孤児のアンは、アヴォンリーに住む老兄妹にひきとられます。男の子を希望していた2人は初めは戸惑いますが、おしゃべりで想像力に長けたアンの魅力が受け入れられ、家族の一員としてなくてはならない存在となっていきます。



中学生向け

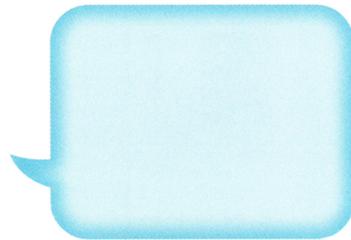
読んでみてのコメント



93 『トムは真夜中の庭で』 (岩波少年文庫)

フリリパ・ピアス/作 高杉一郎/訳 岩波書店

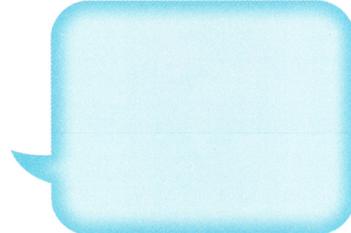
弟のはしかのため、おばの家に預けられていたトムは、真夜中に階下の古時計が13回打つのを聞きます。昼間はなかった裏庭でヴィクトリア朝時代の少女ハティと楽しい時間を過ごします。謎は最後に大きな感動に変わります。



94 『鬼の橋』 (福音館文庫)

伊藤遊/作 太田大八/画 福音館書店

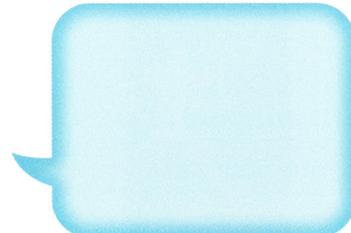
妹の死に苦しむ少年篁は、京の五条橋で少女阿子那と大男非天丸に出会い、彼らと過ごすうち穏やかな気持ちになります。しかし2人が守る橋が焼け、無力さを感じた篁は強くなりたいと願い、生きることを決意します。



95 『あのころはフリードリヒがいた』 (岩波少年文庫)

ハンス・ペーター・リヒター/作 上田真而子/訳 岩波書店

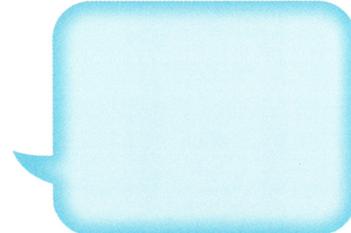
第二次世界大戦中のドイツにおいて、ユダヤ人フリードリヒ一家が、次第に追い詰められていく様子を、ドイツ人少年の目から描いた物語です。幼少期の頃から年月を追って物語は克明に描かれています。



96 『新版 指輪物語1』 (評論社文庫) ほか9

J・R・R・トールキン/著 瀬田真二・田中明子/訳 評論社

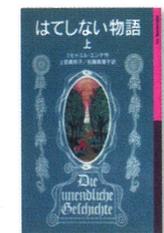
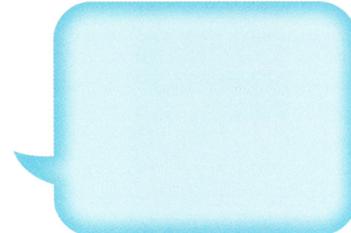
ホビット族のフロドは、世界を統べる指輪をモルドールの滅びの火口へ捨てる旅に出ます。9人の旅の仲間を得て指輪を所有したい欲望と戦い、サウロンの追手から逃れながら滅びの山を目指していきます。



97 『王への手紙』 上・下 (岩波少年文庫)

トンケ・ドラフト/作 西村由美/訳 岩波書店

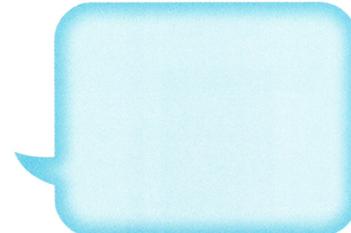
騎士ティウリは、騎士になる前夜に隣国の王への手紙を託されます。ティウリは手紙の中身を知らずに旅を続ける中、急襲にあたり、囚われの身になります。その手紙には国の命運を左右することが記されていたのです。



98 『はてしない物語』 上・下 (岩波少年文庫)

ミヒャエル・エンデ/作 上田真而子 佐藤真理子/訳 岩波書店

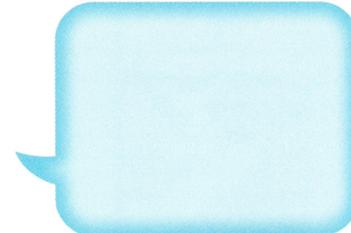
少年バスチアンが、偶然入った古本屋で出会った本を読みふけるうちに、自分が物語の中に出てくることに気づきます。物語のなかの国「ファンタージェン」を滅亡から救うため、バスチアンは物語の世界に飛びこんでいきます。



99 『一瞬の風になれ』 第1部～第3部

佐藤多佳子/著 講談社

高校1年生の新二は友だちで走りの天才と言われる連と陸上部に入ります。新二は連にあこがれを抱きながらもいつか追いつこうと懸命に練習を続けます。個性的な部員たちと成長する新二の姿に胸が熱くなる青春小説です。



中学生向け

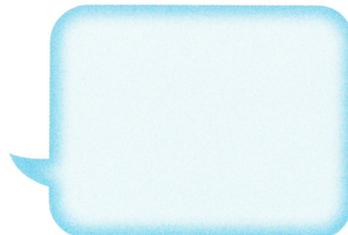
読んでみてのコメント



100 『君たちはどう生きるか』 (ポプラポケット文庫)

吉野源三郎/著 ポプラ社

中学1年生のコペル君は、父をなくしており、おじさんが時々コペル君の相談役となり、適切なアドバイスをしてくれます。中学生として過ごしていく中で、思春期の悩みや問題が主人公の目を通して、リアルに描かれています。





安達地区読書活動推進委員会

問い合わせ先： 二本松市教育委員会 教育総務課 ☎55-5149
本宮市教育委員会 教育総務課 ☎24-5441
大玉村教育委員会 生涯学習課 ☎48-3139